

## これからの附属学校のあり方を考える協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝國分充・東京学芸大学長）は、11月22日（金）、全国国立大学附属学校連盟との共催により、これからの附属学校のあり方を考える協議会を東京大学本郷キャンパス情報学環・福武ホールにおいて開催し、附属学校園を置く国立教員養成大学・学部附属学校担当理事・副学長、学部長、附属学校部長・統括長等及び附属学校園の校園長・副校園長等をはじめとする関係者約130名が出席した。

開会の挨拶で國分会長は、「附属学校の改革については、平成29年に報告書が出された有識者会議で、学部・大学院教育の改革と並んで、その必要性が指摘されたところである。附属学校は、国立大学の教員養成の質を担保する上で必要不可欠な存在であり、また、地域公立校などのモデルとなるべき種々の教育実践も求められている。こうした役割を附属学校が十分に担っていくことに際し、本日の協議会での議論が有益なものになることを祈念する。」と述べた。

引き続き、桑名良尚全国国立大学附属学校PTA連合会会長は、「学校外で起きたトラブルでさえも、学校に対応してもらっている状況になっている。こうした点を親である我々PTAが、地域の方々とともに助け合えるような仕組みを作っていけば、学校の負担が少なくなるのではないかと思います。本日の協議会が皆様にとってより大きなものになることを祈念する。」と述べた。

その後、各学校から事例発表があった。山崎勝之新潟大学附属長岡小学校校長から「16市町村の教育長訪問を生かした地域貢献活動」について、九郎座仁美香川大学教育学部附属幼稚園副園長から「『働きやすさ』と『働きがい』が感じられる職場づくりを目指して」について、上園悦史東京学芸大学附属竹早中学校主幹教諭から「校種間連携について、本地区における実践」について、辻本堅二大阪教育大学附属池田中学校副校長から「生成AI活用の可能性」について、奈良真行大阪教育大学附属池田小学校副校長から「業務改善に伴う教育実習のあり方」について、それぞれ説明があった。

続いて、基調講演として加治佐哲也兵庫教育大学長から「国立大学附属学校のこれから」について説明があった。

休憩を挟み、文部科学省からの説明として、小倉基靖総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長から、「国立大学附属学校の現状と課題」について説明があり、その後、大竹全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会副会長から、「教育後援会運営に関するアンケートの結果」について、説明があった。

最後に、木山慶子全国国立大学附属学校連盟理事長の閉会挨拶があり、盛会のうちに閉会となった。



國分会長



桑名全国国立大学附属学校PTA連合会会長



山崎新潟大学附属長岡小学校校長



九郎座香川大学教育学部附属幼稚園副園長



上園東京学芸大学附属竹早中学校主幹教諭



辻本大阪教育大学附属池田中学校副校長



奈良大阪教育大学附属池田小学校副校長



加治佐兵庫教育大学長



小倉教員養成企画室長



大竹全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会副会長



木山全国国立大学附属学校連盟理事長



会場の様子